

毎議会質問し、常に前向きな提案をしてきました!



4年間の質疑時間795分(本会議のみ) 全議員中1位! 単位:分

	平成28年		平成29年		平成30年		平成31年/令和元年	
3月議会	一般質問	35	一般質問	35	一般質問	35	代表質問	120
6月議会	一般質問	70	一般質問	65	一般質問	60		
9月議会	一般質問	50	一般質問	50	一般質問	70	一般質問	90
12月議会					一般質問	55	一般質問	60

議員の最も大切な仕事は議会で議論することです。

私のモットーは「提案型質問をする」ことです。常に議会内が活性化するように、市民生活が向上するようにとの視点で問題提起や、現状打破の提案を私なりにしてまいりました。本会議以外でも常任委員会や予算特別委員会・決算特別委員会でもかなりの改善提案を行い、2~3年かかってでも実現する施策が増え、手応えを感じています。議会内のポストも、今期は議会内最大会派「水曜日」副会長、建設水道委員会・委員長、都市整備特別委員会・委員長、企業会計決算特別委員会・委員長を歴任し、多くの経験を重ねているところです。なお、議会における発言録はfacebook「大田ゆうすけ事務所」に掲載していますので、ぜひ一読ください。

お知らせ

経済レポート「祐介の目」連載100回記念集を発行

平成23年10月1日からスタートし、毎月1日号掲載のコラム「祐介の目」100回分をまとめました。希望者は事務所までご連絡ください。政治・経済・歴史・文化と多岐にわたり執筆しています。

大田ゆうすけ&小林ふみあき・市政&国政報告会

◆日時:1月25日(土) 14時~15時半 ◆会場:大田記念病院4階会議室
 恒例の市政&国政報告会です、ぜひご参加ください。 ※大田記念病院駐車場は有料(1時間200円)です。

樋口隆一講演会「祖父・樋口季一郎を語る Part2」

郷土ゆかりの偉人・樋口季一郎(福山歩兵41連隊長)の孫・樋口隆一氏の講演会です。樋口閣下はオトポール事件にて多くのユダヤ人を救出し、戦後もソ連と北方領土を巡る戦いを指揮し、北海道がソ連領となることを阻止しました。昨年好評につき2回目の開催です。

◆日時:3月22日(日) 14時~ ◆会場:備後護国神社・参集殿 参加費:500円

編集後記

早いもので4期目が終わろうとしています。4年間全力疾走してきましたが、引き続きのご支援をよろしくお願いたします。お名前間違い・転居等による変更、配信不要の方はご一報ください。



樋口季一郎/友滝人史画

十二月定例市議会

本会議は十二月四日開会。昨年の西日本豪雨の災害復旧費などを盛り込んだ一般会計補正予算案など40議案を賛成多数で可決しました

平成三十年七月の西日本豪雨災害による災害復旧事業(再計上)に、総額6億8960万円余を盛り込む



福山市議会 水曜会の面々

12月補正予算額

一般会計	32億5,706万円
特別会計	1,453万円
企業会計	4億1,708万円
全会計合計	36億8,868万円

債務負担行為とは、土地・建物の賃貸借など、複数年度にわたり支出を予定する事業にかかわる会計処理です。

ため池や水路、農道など平成三十年七月の西日本豪雨の災害復旧対策費としての追加分や、市役所本庁舎地下にある非常用電源設備や空調電源が豪雨で水没する事態を避ける為、更新や移設に向けた68億8900万円を限度とする債務負担行為を設定しました。設定期間は、令和二年から令和二十年です

12月一般会計補正予算(主な事業)

安心・安全の実現	
平成30年7月豪雨災害事業	6億8,960万円
農林水産施設 土木施設	
消防機器整備費(トランシーバー)	3,000万円
コミュニティーの活性化	
地域集会所建設費補助	397万円
審附金対応	
生徒指導教育相談事業費(タブレット端末整備)	50万円
公園建設費	5万円
制度上補正を必要とするもの	
財政調整基金積立金	14億4,000万円
国庫負担金等返還金	6億2,734万円
障がい福祉サービス事業費	4億3,400万円
後期高齢者療養給付費負担金	1,729万円
その他	
旅券発給事務費	1,430万円

福山市新総合体育館が市営競馬場跡地に三月二日にオープンします。当日は、障がい者アスリートのパラクライミング日本選手権大会が開催され、国内トップクラスの選手が出場します。



福山市新総合体育館周辺

福山市新総合体育館
 三月二日に
 いよいよオープン

施設は、メインアリーナ(2600㎡)サブアリーナ(1000㎡)、柔道場(600㎡)、剣道場(600㎡)、トレーニング室、スポーツクライミングなどのほか、大型遊具を備えた公園(約2ha)やランニングコースも整備します。周辺道路の整備も含め総事業費は約134億円。国と市は、隣接の芦田川河川敷をレクリエーション空間に再編する(かわまち広場)工事も進めており、一体で新たな交流拠点とします。呼称は、命名権で「エフピコアリーナふくやま」となります。

十二月議会の一般質問者は、左記の通りです。

- 高田健司 エフピコRIMの再生について
- 大田祐介 福山駅北口整備について
- 榎原則男 神辺本陣について
- 連石武則 防災行政について
- 石口智志 待機児童対策について
- 喜田紘平 通学路の安全対策について

詳細は、二月一日発行の「福山市議会だより」に掲載されます。

一般質問に、水曜会から6人が登壇
 枝廣市長を質す

一般会計補正予算水曜会の賛成討論

本予算の主なもの、平成三十年七月の豪雨災害復旧によるもので、地元との協議に日程を費やしてきた事は理解できるが、農業者は、昨年の被災から今年にかけて、う回路や他の頭首工やため池から取水するなどの不自由を強いられており、来年度の取水期に間に合うように、遅滞なく進める事を要望し、賛成しました。



伊勢神宮と赤福

議会の行政視察で伊勢市を訪問した。伊勢と言えば伊勢神宮と赤福、両者の関係は神社のお土産という単純なものではない。平成5年、当時の赤福の年商に匹敵する約140億円を投入し、「お伊勢さんのおかげ」との感謝の気持ちを込めて立ち上げた門前町「おかげ横丁」は参拝者で溢れていた。ここが無ければ観光地としての魅力は半減だろう。

伊勢フットボールヒレッジ(サッカー村)も訪問したが、総工費15億円のうち13億円は赤福からの寄付だった。そこで平成19年の赤福の賞味期限偽装事件の影響について質問した。売れ残った赤福を回収し、一度冷凍保存したのち包装紙に解凍した日を製造日として賞味期限を掲載していた事件だ。赤福はこれにより約5ヶ月間営業を停止、寄付は企業イメージ失墜の挽回策ではないかと感じたからだ。

1707年創業の赤福

実際は違い、フットボールヒレッジへの寄付の計画は偽装事件以前からあり、当初7面の計画を5面に縮小した上で平成24年に完成したそう。普通の企業なら計画を中止しただろう。平成29年度の利用人数は10万人を超えたそうだが、伊勢市はこのサッカー村で合宿をする際の補助金を用意している。夫婦若く有名な一見浦の旅館街に宿泊すれば一人一泊千円の補助金が出る。かつて二見浦は伊勢神宮参拝客や修学旅行生で栄えたが、どちらの客も減少し廃業するホテルや旅館も出る中、サッカー村と補助金は大きな追い風となった。

赤福の偽装は決して許される事では無いが、食中毒等の被害者が出たという話ではなく、マスクミのバッシングに対して伊勢市民は赤福を応援していたそう。現在、赤福は業績のV字回復を果たし、あの事件によりかえって知名度が上がったのではないかとこの声も聞いた。赤福は利益を公共に還元することにより、更なる伊勢市への誘客と売上増を実現している。政教分離の指摘も受けることなく、宗教施設である神社と行政と民間企業がタイアップして成功した地域活性化ビジネスモデルとして注目したい。

経済リポート H31年6月1日号掲載
「祐介の目」



相沢事件と福山

福山が戦前の昭和史を揺るがす大事件の舞台であった事あまり知られていない。以前紹介した歩兵第41連隊・連隊長の樋口季一郎大佐の部下・相沢三郎中佐が起こした相沢事件である。相沢事件は翌年の2・26事件の引き金にもなった。今回はその福山でのエピソードを紹介したい。

相沢は天皇親政の下での国家改造を目指した皇道派の急先鋒であり、41連隊の若手将校を取り込むとしたが樋口は許さなかった。若手将校たちに「相沢と国家改造を唱えるならば、お前(じ)に自由(クビ)を与えてやる」と厳しく対処した。さらに相沢の為を思い日本国内の危険分子と切り離すため、自身の満州転任と同時に相沢を台湾に転任させた。

その3日後の昭和10年8月2日、台湾赴任の道中に相沢は白昼堂々と陸軍省内に入り込み、皇道派に対する統制派の永

経済リポート H31年4月1日号掲載
「祐介の目」

福寿会館(洋館)

田鉄山軍務局長を刺殺した。永田は陸軍さつての秀才であり「永田の前に永田なし、永田の後に永田なし」と言われ、将来の陸軍大臣と目されていた。永田が死ななければ東条英機の台頭もなく、あの戦争も回避できたとの説がある。

福山城北側の福寿会館は満州に転任した樋口の留守宅であり、玄關に相沢夫人が駆け込んできた様子を長女・美智子が目撃していた。「永田軍務局長を刺した某中佐とは、家の主人に違いありませんわ。奥様どうしましょう!」と肩をわなわな震わせて泣いておられ、樋口夫人が「しっかりとなさって!」と肩を擦り懸命に力づけていたそう。

美智子いわく、東北出身の相沢は、「リン」を切るとうすると「嬢ちゃん!丸ごとよ、皮もむかないで頂戴!」と丸ごこのリンゴをさも美味しそうに真白な歯でかりかりと召し上がったのを思い出す。思い出の最高は、天下一品の江差追分であった。哀調切々たる節回し、美声、あのお声を耳にした人はもう少ないと思うと涙を押さえられない……

知られざる昭和史の大事件をこのまま忘却してよいのか、ゆかりの地をぶら探訪したい方がいればご案内したい。



建造中の戦艦大和

料が十分あれば負けていない「米兵は弱かった」と語っていた。昭和の勇士達は平成の終わりまでにはほぼ全員亡くなったが、彼らは戦後の日本は米国の属国状態であるとの認識だった。

昭和と平成・令和 昭和43年に生まれ昭和20年、平成を30年生きて令和を迎えることになる。昭和は戦争の時代だった。しかし私の記憶にある戦争とは、今は無き天満屋前の歩道橋の上で白衣を着た傷痍軍人が物乞いをしていた情景を思いださうか。家の近所に広大福山分校があり、駅前にあったスポーツセンターの水泳教室のコーチ(大学生)を訪ねて寮に遊びに行った。男子寮の高志寮、女子寮の清明寮いずれも歩兵第41連隊当時の建物であり、今思えば歴史的建造物であった。これらは昭和の終わりとともに姿を消した。

平成の初期、私は作業療法士として大田記念病院の老人デイケアに勤務していたが、当時70、80代の男性の多くは戦争経験者であった。戦場という極限の体験談は興味深く「自分達は国の為に戦ったが戦後は日陰者だった」「武器・弾薬・食

令和の時代、大多数が戦後生まれになった頃に次の戦争の危機が到来すると感じる。そうならないために戦史の研究や政治家の外交努力が必要だが、最近の投票率等を見ると国民に危機意識が欠けていると強く感じる。昭和の勇士達が見たらどう思うだろうか。

経済リポート H元年5月1日号掲載
「祐介の目」



追悼・亀井郁夫先生

5月15日、元参議院議員の亀井郁夫先生が亡くなられ「やまなみ街道」を通じて庄原市川北町のご実家に弔問に訪れた。真正銘の山奥であり、ここで日本を代表する政治家・亀井兄弟が育ったと思うと感慨深いものがあった。

郁夫先生は苦学の末に東大卒業後、旭化成に入社して山口信夫(後の日本商工会議所会頭・歩兵第41連隊出身)らと旭化成を日本一の総合化学会社に躍進させた。私は同社が開発したマイクロサという中空糸膜部門を先生に紹介して頂き、芦田川河口堰の開放に向けて下水道の膜処理の活用を研究してきた。郁夫先生亡き後もいつかは実現したい。

そもそも郁夫先生との出会いは、平成10年頃に私の両親が立ち上げた「福山の教育を考える会」のご支援をいただいた事だ。私の小学生時代を振り返れば同和教育全盛期であり、狭山

国旗・国歌法制立に尽力

科学委員長を務められた先生は国旗国歌法の成立に尽力し、部落解放同盟の小森龍邦書記長とも渡り合い、広島県の公教育の正常化に多大な貢献をされたと感じている。

私は自他ともに認める亀井党であったが、亀井兄弟が郵政民営化に反対して自民党を離党した際に多くの支援者が離れていくのを見るのは辛かった。大勢に背いて自分のポリシーを貫く事は勇気が必要だ。同時期に私も市長が推進する輛の理め立て架橋計画に反対した。その結果、長期間にわたり冷や飯を食うことになったが、国民新党が与党の一翼を担った際に多くの支援者が戻ってきた様子も見たので気にする事も無かった。

親族代表の挨拶は実弟の静香先生であり、締めくくりに言葉は「兄は公私ともに幸せな人生であった」。今までに聞いた静香先生のご挨拶の中で最も秀逸であったと思う。仲の良い兄弟であった。

経済リポート H元年6月1日号掲載
「祐介の目」

事件の石川青年に対して激励の手紙も書かされたし、学校に国旗は無く、卒業式等で国歌を歌うことも無かった。そのような広島県の公教育の歪の最たる例が国旗国歌を巡り教職員と対立した世羅高校の校長の自殺ではなかったか。参議院の文教科学委員長を務められた先生は国旗国歌法の成立に尽力し、部落解放同盟の小森龍邦書記長とも渡り合い、広島県の公教育の正常化に多大な貢献をされたと感じている。



ローズアリーナ内部

学校の未来

昭和30年5月、修学旅行生を乗せた宇高連絡船・紫雲丸の海難事故により百名の児童生徒が亡くなり、以来全国的に学校プールの建設が進み水泳の授業が行われるようになった。福山市内最初のプールは南小学校だったが、私が卒業した多治米小学校は日本鋼管製の鋼板を使ったプールであり、コンクリート製プールより立派だと校長が自慢していたのを覚えている。当時多治米の先輩・藤田康二さんは50m自由形の学童新記録を樹立したが、40年以上経た今でも破られていない。

昭和50年代に入るとスイミングスクールブームが到来し、市内にも多数の温水プールが建設され、一年中多くの子供達で賑わうようになった。各スイミングに選手コースが設けられ有力選手も育ち、平成の半ば頃まで福山の水泳界は大いに盛り上がった。

経済リポート H元年10月1日号掲載
「祐介の目」

しかし、時代は少子高齢社会となり多くの学校のプールは老朽化し、プールの維持管理費に年間3百万円かかるようになった。市内全小中学校でいえば2億8千万円である。この際、学校の水泳の授業は近隣のスイミングスクールに委託してはどうかと議会で提案している。スイミングも少子化によりシニア中心の運営に変わっている。スイミングのコーチの方が水泳指導は得意であるうし安全管理にも長けているだろうから教職員の負担軽減も兼ねて一石二鳥ではないか。

公営プールも老朽化が著しく、竹ヶ端や丸の内プールもまもなく寿命が来る。そうすると50mプールはローズアリーナのみになるので、これを通年使用できるプールに変えるべきだろう。飛込プールにも屋根を付けて通年使用可能とすれば一層の競技力向上も期待できる。

学校プールでの水泳部の活動もスイミングに移管して選手育成をはかってはどうだろう。大阪市では「塾代助成事業」として学習塾やスイミングの費用に対し月額上限1万円の補助制度がある。福山市にもこのような制度を検討するよう要望している。



ムンフザヤ選手

山野町の将来

私は10年前から福山市最北端のまち山野町が、日本の過疎地再生のモデルケースとなるような取り組みを進めている。耕作放棄地をぶどう畑に転用しワイナリーを整備して3年、今年の「山野峡ワイン」新酒に期待して頂きたい。

最近、山野町は移住者が増えている。「藍屋アロワール」の藤井健太さんはタデアイの栽培から藍染めまで一貫して行う数少ない職人だ。テロワールとは一般にワイン造りに適した気候風土を指し、藍染めという伝統文化をこの地に定着させたいという藤井さんの意欲を感じる。10月から着任した地域おこし協力隊の辻本良子さん一家は、山野町のぶどう畑の風景を見て東京からの移住を決めたという。

現在の山野町の大きな課題は山野小中学校の再編問題であり、市教育委員会は令和4年度に加茂小中との統合を打ち出している。私は学校存続

経済リポート H元年11月1日号掲載
「祐介の目」

を願う住民の気持ちを尊重しつつも、子供達にとってより良い教育環境は何かという視点で折衷案を考えている。11月17日は馬乗観音の千年祭が行われる。馬乗観音は長久二年(1041)備中国矢掛の新五平と申す人が此の地に勧請したという。本尊は十一面千手観音立像、商売繁盛・学業成就・病氣平癒等様々な御利益が伝えられている。できれば福山山岳会が定期的に整備している旧道を歩いて登り、千年の歴史を踏みしめながら参拝して欲しい。

12月20日から1月20日にかけて東京オリンピック・女子マラソン代表に決定しているモンゴルのムンフザヤ・バヤルツォグト選手が山野町の私の民宿「やまの宿・西元」で合宿を行うことが決まった。冬のモンゴルは氷点下30度以下がり路面が凍結して走れなくなる。山野町は車が少なく、適度なアップダウンがあり練習環境として最適だ。合宿終了後は大阪国際女子マラソン出場も予定しており、皆様の応援をお願いしたい。

このように、私が山野町の将来に向けて蒔いた種から多くの芽が出て、これからまさに花開く予感がしている。